学校教育目標「 笑顔いっぱい　ともに輝く小山台 」

小山台

学　校　だ　よ　り
２月号
令和5年1月31日
横浜市立 小山台小学校

一人ひとりの“よさ”と“可能性”を

校長　椎名 哲也

今から 50 年前、私は小学校 4 年生でした。担任の先生は沖縄のご出身で、先生から学ぶことはいつも新鮮、自分が知らないことが学べるので毎日が楽しかったことを覚えています。下校するときに「てんさぐの花」という歌を毎日歌ったのですが、今まで自分が歌ってきた歌とは雰囲気が随分違うこと、そして歌の意味が全く分からなかったことを覚えています。先生は沖縄とは言わずに、「琉球」と言われていたことも印象に残っています。「日本なのだけれども、今はアメリカです。」「切手がちょっと違うでしょ？琉球切手というのよ。」「先生、英語が上手！ アメリカの人なの？」など、4年生の時は毎日、いろいろなことを先生に尋ねて過ごしました。でも、たいへん厳しい面もあり、学校のルールをしっかり守るように何度も助言されました。遠足に出かけたときは、乗り物に弱い私がバスの中で休んでいると傍で励まし続けてくれました。その後は先生からどんなに厳しく助言されても、先生と一緒にいると安心感が湧いてくるようになり、その安心感が先生への信頼感へと高まって、思い出に残る先生の一人になったのだと思います。先生は「あなた、足が速くて元気、声も大きいから、大人になったら先生になりなさい！」と言われたことも覚えています。それがきっかけになって、今の自分があるのだろうと思います。

担任の先生は、私の中にある“よさ”と“可能性”を見出し、いろいろな機会を通してほめてくれました。自分が教員になってみて感じたのは、子どもたち一人ひとりを多くの目で見れば、より多くの“よさ”と“可能性”を子どもたちの中に見出すことができるのではないかということです。私たちの小山台小学校は規模が小さな学校ですが、教員だけでなく保護者、地域の方々と今後も豊かに連携し、子どもたちの“よさ”と“可能性”を見出していければと思います。横断歩道で保護者や地域の方々と元気に挨拶して登下校することができている小山台小の子どもたち。実はそれが出来ることは本当に素晴らしいこと、小山台小の児童の“よさ”だと思います。保護者・地域の方々に支えられていることをしっかり受け止めて、これからも元気な挨拶を大切にしていってほしいです。

子どもたちは、あと数ヶ月で新しい学年に進級、6年生は中学校に進学です。 今、自分がもっている“よさ”と“可能性”を信じ、さらに前に一歩、歩み出してほしいと思います。そして、力を合わせて小山台をより豊かな“まち”へと創り上げていくことを期待しています。

子どもたちの学校生活の様子については、小山台小学校のホームページ「学校日記」に随時掲載しています。ぜひご覧ください。